Arcserve® Unified Data Protection Cloud Hybrid ユーザガイド

バージョン 1.1

arcserve*

リーガルノーティス

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserve本ドキュメントは、Arcserveが知的財産権を有する機密情報であり、Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されているソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、Arcserveのすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは Arcserve に本書の全部または一部を複製したコピーを Arcserve に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserve は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害が間接損害がを問いません)が発生しても、Arcserve はお客様または第三者に対し責任を負いません。Arcserve がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserveです。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2020 Arcserve (その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved.サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

Arcserve サポートへの問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

テクニカルサポートへの問い合わせ

Arcserve サポートの内容

- 弊社のArcserve サポート チームが社内で共有しているのと同じ情報ライブラリへ直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース(KB)ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- 弊社のライブチャットリンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。 ライブチャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバルユーザコミュニティに参加して、質疑応答、ヒントの共有、ベスト プラクティスに関する議論、他のユーザとの会話を行うことができます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、 質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、ご使用のArcserve製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

コンテンツ

第1章: Arcserve UDP についての理解 Cloud Hybrid	7
概要	8
機能	11
Cloud Hybrid によって顧客が得られるもの	. 14
Cloud Hybrid にアクセスするための前提条件	. 15
後方互換性サポート ポリシー	. 16
第2章: バックアップ サービスとしての Cloud Hybrid の使用	21
Cloud Hybrid 復旧ポイントサーバへのデータのレプリケート	. 22
共有プランを使用して保護されたWindowsノード データをレプリケートする方法	. 23
共有プランを使用して保護された Linux ノード データをレプリケート する方法	24
Cloud Hybrid からのファイルおよびフォルダのダウンロード/復旧	. 25
Windows ファイル システムを使 用して Cloud Hybrid からファイルとフォルダをダウンロード する方 法	
Cloud Hybrid からファイルとフォルダを復旧する方法	
Microsoft Office 365 データを Cloud Hybrid に保護 するプランの作成	. 29
インスタント仮想ディスクを使用してアシュアード リカバリを実行する方法	30
Arcserve UDP Cloud Hybrid からの保護されている Microsoft Office 365 データの復旧	. 32
Microsoft SharePoint Online サイト コレクション データをリストアする方 法	33
Microsoft Office 365 Exchange メールボックス データをリストアする方法	. 34
Microsoft OneDrive データのリストア方 法	. 35
第3章: 惨事復旧サービスとしての Cloud Hybrid の使用	.37
Linux ファイル システムを使 用して Cloud Hybrid からファイルとフォルダをダウンロート する方 法	: 38
仮想スタンバイを使用したCloud Hybrid での惨事復旧システムの実行	. 39
惨事復旧システムで Hyper-V サーバを使用する方法	40
仮 想 スタンバイを使 用して Cloud Hybrid のデータを復 旧 する方 法	41
インスタント VM を使用した Cloud Hybrid での惨事復旧テストの実行	48
Cloud Hybrid で Linux バックアップ サーバを追加 する方法	49
Cloud Hybrid インスタント仮 想 マシンを作 成 する方 法	51
アシュアード リカバリを使用した Cloud Hybrid での惨事復旧のテストの自動化	68
バックアップ データのアシュアード リカバリを実行する方法	69
アシュアード リカバリ テスト ジョブを手動で実行 する方法	73
Cloud Hybrid の惨事復旧システムへの接続	. 76
惨事復旧システムでネットワーク設定を使用する方法	77

	惨事 復 旧 システムの Hyper-V サーバに接続 する方 法	.78
	サイト間 VPN を使用して DRaaS インスタンスにアクセスする方法	.79
第	4章:新しいまたは空の復旧ポイント サーバへのリバース レプリーションの手動設定	81
3	シナリオ1およびシナリオ2を使用して手動で設定する方法	. 82
3	シナリオ3およびシナリオ4を使用して手動で設定する方法	.84

第1章: Arcserve UDP についての理解 Cloud Hybrid

Arcserve UDP Cloud Hybridドキュメントへようこそ。このドキュメントでは、Cloud Hybrid のセットアップ、アクセス、および使用に関する情報を説明します。 このセクションには、以下のトピックが含まれます。

概要	8
 機能	11
Cloud Hybrid によって顧客が得られるもの	
 Cloud Hybrid にアクセスするための前提条件	15
後方互換性サポート ポリシー	16

第1章: Arcserve UDP についての理解 Cloud Hybrid 7

概要

Arcserve UDP Cloud Hybrid は、組織がシームレス統合 クラウド バックアップおよび DR (Disaster Recovery、惨事復旧)を使用してデータ保護ニーズを満たすことが できるようにするクラウド コンピューティング サービスです。Cloud Hybrid は、重大なシステムとデータのオフサイトの可用性を確保する事業継続ソリューションです。

Cloud Hybrid は、Arcserve UDP プラットフォームに対するサービスの拡張機能として提供され、データ保護の完全なセキュリティと効率のために、グローバルデデュプリケーション、暗号化、圧縮、および WAN 最適化レプリケーションを活用します。

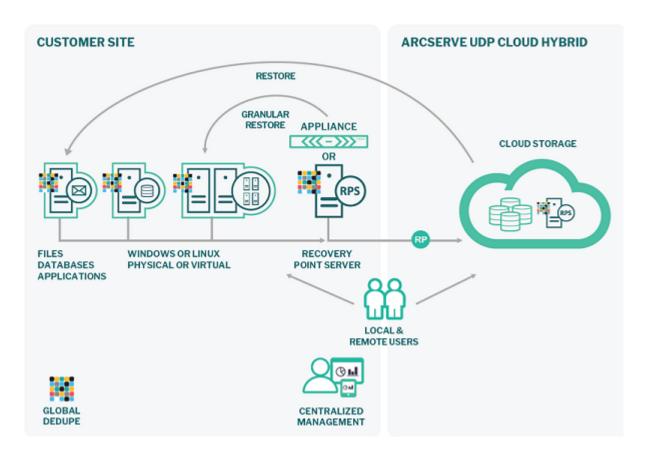
シームレスな統合によって、オンプレミス RPS (Recovery Point Server、復旧ポイントサーバ) または Arcserve UDP アプライアンスが、Cloud Hybrid でデータを管理 するためにデータが自動的にレプリケートされるクラウド RPS に接続されます。

Cloud Hybrid は、以下のサービスの種類で使用できます。

■ BaaS (Backup as a Service): Cloud Hybrid は、オンプレミス RPS (Recovery Point Server、復旧ポイント サーバ)から、クラウド内の対応する RPS にバックアップ イメージを自動的にレプリケートします(ディスクからクラウドのディスクへ)。バックアップ ソース、デスティネーション、保持期間を指定して、Arcserve UDP コンソールから、バックアップ プロセス全体を管理できます。

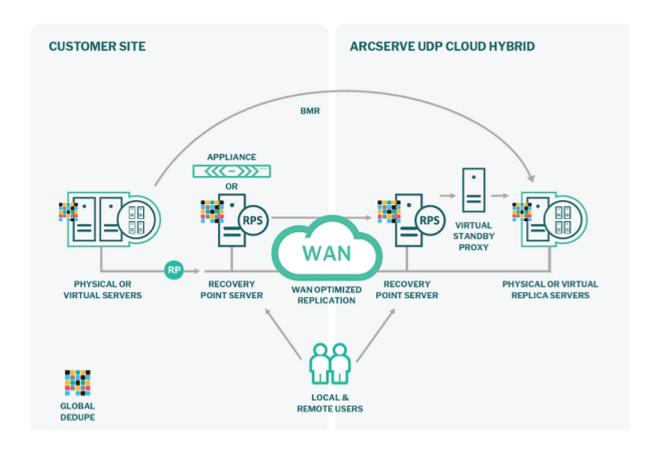
詳細については、

Basの使用を参照してください。



■ DRaaS (Disaster Recovery as a Service): Cloud Hybrid は、重要なデータ 資産保護を超え、組織がシームレスな DR (Disaster Recovery、惨事復旧)を使用したデータ保護戦略を行えるように支援します。このサービスは、Arcserve UDP プラットフォームに対する拡張機能として提供され、グローバルデデュプリケーション、暗号化、圧縮、および WAN 最適化レプリケーションを活用する次世代ソリューションです。

詳細については、 DRaaSの使用 を参照してください。



Arcserve UDP Cloud Hybrid では、ある RP から別の RP にレプリケートし、Cloud Hybrid から手動でデータをレプリケートできます。

詳細については、以下を参照してください。

- _ (RPS から RPS ヘレブリケート
- 🧧 🤇 手動で Cloud Hybridからのレブリケーション

Arcserve アプライアンスを Cloud Hybrid に接続するだけです。

機能

Arcserve UDP Cloud Hybrid で利用可能な主要な機能の一部を以下に示します。

■ Cloud Hybrid へのレプリケート: Arcserve UDP を使用すると、オンプレミス復旧ポイント サーバから Cloud Hybrid にバックアップ セッションをレプリケートできます。このプロセスによって、元の復旧ポイントがマージまたは意図せず削除された場合に、復旧ポイントの追加のコピーが利用できるようにします。

詳細については、「<u>Cloud Hybrid 復旧ポイントサーバにデータを</u>レプリケートす <u>る方法</u>」を参照してください。

■ Cloud Hybrid からのファイル/フォルダのダウンロード: ファイル/フォルダのダウンロードは、Windows ファイルシステムの Cloud Hybrid レプリケート 済みセッションから利用可能です。サポートされるバックアップの種類は、Windows エージェントベース バックアップ、Windows 仮想マシンのホストベース エージェントレス バックアップ、および UNC パスです。DRaaS 環境では、Linux ファイルシステムの Cloud Hybrid レプリケート セッションからファイル/フォルダをダウンロードできます。

詳細については、「Cloud Hybrid からファイルとフォルダをダウンロードする方法」を参照してください。

■ Cloud Hybrid への Office 365 OneDrive のバックアップ: OneDrive は、
Microsoft Cloud にホストされているファイル ストアです。OneDrive プランは、
保護 する OneDrive ノードを指定 できるバックアップ タスク、バックアップ先、およびバックアップ スケジュールで構成されます。バックアップ先はバックアップ
データを保存する非デデュプリケーション データ ストアまたはデデュプリケーション データ ストアです。

詳細については、「<u>Microsoft Office 365 OneDrive ノード バックアップ プランを</u>作成する方法」を参照してください。

注: この機能を有効化するには、Cloud Hybridに Arcserve UDP 7.0 が必要です。

■ Cloud Hybrid への Office 365 Exchange Online のバックアップ: Exchange Online は、Microsoft Cloud にホストされている電子メール アプリケーションです。プランを作成し、Microsoft Cloud からメール、予定表アイテム、連絡先などの Exchange Online メール アイテムを保護します。 Exchange Online のプランは、保護する Exchange Online ノードを指定できるバックアップ タスク、バックアップ先、およびバックアップ スケジュールで構成されます。バックアップ先は、バックアップしたデータが格納されている非デデュプリケーションまたはデデュプリケーション データ ストアです。

詳細については、「<u>Exchange Online プランを作成する方法</u>」を参照してください。

■ Cloud Hybrid への Office 365 SharePoint Online のバックアップ: SharePoint Online は、Microsoft Cloud にホストされているポータル管 理 アプリケーションです。SharePoint Online プランを作成し、Microsoft Cloud からドキュメント ライブラリやリスト ライブラリなどの SharePoint Online リスト アイテムを保護します。SharePoint Online プランは、保護する SharePoint Online ノードを指定できるバックアップ タスク、バックアップ先、およびバックアップ スケジュールで構成されます。バックアップ先はバックアップ データを保存する非デデュプリケーション データ ストアまたはデデュプリケーション データ ストアです。

詳細については、「SharePoint Online プランを作成する方法」」を参照してください。

■ **アシュアード リカバリ:** データのアクセシビリティとアシュアード リカバリを確認するには、アシュアード リカバリ プランを作成します。アシュアード リカバリのプランは、バックアップ/レプリケーション プランに基づいています。この復旧タスクでは、ソース、テスト設定、スケジュール、および詳細設定で構成される既存のバックアップまたはレプリケーション プランに、アシュアード リカバリ タスクが追加されます。手動でアシュアード リカバリ ジョブを実行することもできます。

詳細については、「アシュアード リカバリプランを作成する方法」を参照してください。

- Cloud Hybrid でのレポート:
 - ◆ RPO レポート: 目標復旧ポイント(RPO)レポートは、復旧ポイントが バックアップ環境でどのように分布しているかを示すコンプライアンスレポートです。 このレポートは、災害時にノードが戻ることのできる最古 および最新のポイントを評価するのに役立ちます。

詳細については、「RPO レポート」を参照してください。

◆ RTO レポート: 目標復旧時間(RTO)レポートは、定義された復旧ポイント目標が実行されるすべてのジョブの復旧ポイントについて満たされているかどうかを示すコンプライアンスレポートです。

詳細については、「RTO レポート」を参照してください。

■ Cloud Hybrid での仮想スタンバイの使用:仮想スタンバイは復旧ポイントを 指定したクラウド上で仮想マシン形式に変換し、必要に応じて容易にユー ザのデータを回復するためのスナップショットを準備します。この機能は可用 性を向上させる機能であり、ソースマシンでエラーが発生した場合はただち に仮想マシンを確実に引き継ぐこともできます。 詳細については、「<u>仮想スタンバイプランを作成する方法</u>」を参照してください。

■ Cloud Hybrid でのインスタント VM の使用: インスタント VM (virtual machine、仮想マシン)は、事前に変換することなく仮想マシン内でバックアップセッションを実行し、ハイパーバイザで仮想マシンを作成するのに役立ちます。インスタント仮想マシンによって、Arcserve UDP バックアップセッションで利用可能なデータおよびアプリケーションへのインスタントアクセスが提供されます。インスタント VM では、リストアまたはバックアップセッションの物理マシンまたは仮想マシンへの変換のためのダウンタイムが排除されます。

詳細については、「Hyper-V および VMware ESX サーバ上 でインスタント 仮想マシンを作成 および管理 する方法」を参照してください。

Cloud Hybrid によって顧客が得られるもの

Cloud Hybrid を使用すると、以下が得られます。

- Arcserve UDP コンソール/RPS サーバ。
- Arcserve UDP コンソールにアクセスするための URL。
- Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインするのに使用されるアカウントのユーザ名 とパスワード。オンプレミス Arcserve UDP コンソールで *リモート 管理の RPS へのレプリケート*]タスクを追加するときに、同じ認証情報が認証に適用されます。

重要: デフォルトでは、Cloud Hybrid のデデュプリケーション データ ストアには、リモートで生成された暗号 化パスワードが含まれています。Arcserve はデフォルト パスワードをリストアできないため、初めて Cloud Hybrid にログインするときに暗号 化パスワードを変更する必要があります。後でデータ ストアのインポート やデデュプリケーション データ ストアでの一貫性 チェックの実行などのタスクを実行するのにパスワードが必要なため、新しく作成したパスワードを安全に保つことをお勧めします。データ ストアが Cloud Hybrid から削除されていない場合、後でデータ ストア設定から新しく作成したパスワードを変更できます。

- オプションの Cloud Hybrid Compute サブスクリプションを購入した場合は Hyper-V ノード。
- Hyper-V で実行される事前設定されたLinux バックアップサーバ。

Cloud Hybrid にアクセスするための前提条件

Cloud Hybrid にアクセスする前に、以下の前提条件を確認してください。

- Arcserve UDP ソフトウェアまたはアプライアンスがあること。
- オンプレミスの Arcserve UDP ソフトウェアまたはアプライアンスのアクティブなメンテナンス契約があること。
- Cloud Hybrid にアクセスするための以下の詳細を含む電子メールを Arcserve サポートから受信していること。
 - ◆ Arcserve UDP コンソールへの URL
 - ◆ ホスト名(ノード名)
 - ◆ Cloud Hybrid のユーザ名 とパスワード
- オプションの Cloud Hybrid Compute サブスクリプションを購入した場合、以下の詳細が提供されます。
 - ◆ Linux バックアップ サーバおよびポイント対 サイト VPN アクセスの root アカウントのパスワード(Cloud Hybrid パスワードと同じ)
 - ◆ ポイント対 サイト VPN の一 意 の設 定 ファイル

後方互換性サポート ポリシー

以下の表は、6.5 Update 4 での Cloud Hybrid レプリケーションでサポートされている Arcserve UDP のバージョンを示しています。

		Cloud	Cloud
	Cloud	Hybrid	Hybrid
	Hybrid	(Arcserve	(Arcserve
	(Arcserve	UDP 6.5	UDP 6.5
	UDP 6.5	Update 4)	Update 4)
オンプレミス バージョン	Update 4)	_	からオンプ
	でサポート		レミスへの
	されている		手動リバー
	レプリケー	バースレプ	
	ション	リケーショ	ケーションの
		ン	要件
			パッチ
Arcserve UDP 7.0 Update 2	0	0	P00001738
			の適用
			パッチ
Arcserve UDP 7.0 Update 1	0	0	P00001738
			の適用
			パッチ
Arcserve UDP 7.0	0	0	P00001738
			の適用
Arcserve UDP 6.5 Update 4	0	0	-
Arcserve UDP 6.5 Update 3	0	0	-
Arcserve UDP 6.5 Update 2	0	0	-
Arcserve UDP 6.5 Update 1	0	0	-
Arcserve UDP 6.5	0	0	
Arcserve UDP 6.0 (すべての Update)	х	х	-

以下の表は、7.0 での Cloud Hybrid レプリケーションでサポートされている Arcserve UDP のバージョンを示しています。

		Cloud	Cloud
	Claud Hubrid	Hybrid	Hybrid
	Cloud Hybrid (Arcserve UDP	(Arcserve	(Arcserve
オンプレミス バージョン	7.0) で リポー トされ	•	UDP 7.0)
オンプレミスパーフョン	ているレプリケーショ	でサポート	l I
	\ \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	されている	レミスへの
		レプリケー	l l
		ションの要	バースレ

		件	プリケー ション
Arcserve UDP 7.0 Update 2	0	-	0
Arcserve UDP 7.0 Update 1	0	-	0
Arcserve UDP 7.0	0	-	0
Arcserve UDP 6.5 Update 4	0	パッチ P00001738 の適用	0
Arcserve UDP 6.5 Update 3	0	6.5 Update	x
Arcserve UDP 6.5 Update 2	0	4 に更新 してから	Х
Arcserve UDP 6.5 Update 1	0	パッ チ P00001738	Х
Arcserve UDP 6.5	0	<u>を適用</u>	Х
Arcserve UDP 6.0 (すべての Update)	x	-	х

重要: Arcserve UDP コンソールのバージョンが Cloud Hybrid のバージョン以上であるかどうかを確認します。たとえば、Cloud Hybrid のバージョンが 7.0 であるにもかかわらず、コンソールのバージョンが 6.5 の場合、プランを作成したり、既存のプランを変更したりして、オンプレミス上のリモート管理の RPS へのレプリケート タスクを追加または変更すると、エラーメッセージが表示されます。次のメッセージが表示されます: コンソールのバージョンが古くなっています。コンソールをアップグレードしてやり直してください。

プランを保存するには、v6.5 Update 4 のオンプレミス コンソールでパッチ <u>P00001738</u>を適用します。

以下の表は、7.0 Update 1 での Cloud Hybrid レプリケーションでサポートされている Arcserve UDP のバージョンを示しています。

オンプレミス バージョン	Cloud Hybrid (Arcserve UDP 7.0 Update 1) でサポー トされているレプリ ケーション	Cloud Hybrid (Arcserve UDP 7.0 Update 1) でサポート されている レプリケー ションの要 件	Cloud Hybrid (Arcserve UDP 7.0 Update 1) からオ ンプレミス への手動 リバース レプリケー ション
Arcserve UDP 7.0 Update 2	0	-	0
Arcserve UDP 7.0 Update 1	0	-	0
Arcserve UDP 7.0	0	_	0

Arcserve UDP 6.5 Update 4	0	パッチ P00001738 の適用	0
Arcserve UDP 6.5 Update 3	0	6.5 Update 4に更新	х
Arcserve UDP 6.5 Update 2	0	してから	Х
Arcserve UDP 6.5 Update 1	0	パッチ	Х
Arcserve UDP 6.5	0	P00001738 を適用	Х
Arcserve UDP 6.0 (すべての Update)	х	-	Х

重要: Arcserve UDP コンソールのバージョンが Cloud Hybrid のバージョン以上であるかどうかを確認します。たとえば、Cloud Hybrid のバージョンが 7.0 Update 1 でも、コンソールのバージョンが 6.5 である場合、プランの作成や既存のプランの変更を行って、オンプレミスでリモートで管理された RPS へのレプリケート タスクを追加または変更すると、エラーメッセージが表示されます。次のメッセージが表示されます: コンソールのバージョンが古くなっています。コンソールをアップグレードしてやり直してください。

プランを保存するには、v6.5 Update 4 のオンプレミス コンソールにパッチ <u>P00001738</u>を適用します。

以下の表は、7.0 Update 2 での Cloud Hybrid レプリケーションでサポートされている Arcserve UDP のバージョンを示しています。

オンプレミス バージョン	Cloud Hybrid (Arcserve UDP 7.0 Update 2) でサポー トされているレプリ ケーション	Cloud Hybrid (Arcserve UDP 7.0 Update 2) でサポート されている レプリケー ションの要 件	Cloud Hybrid (Arcserve UDP 7.0 Update 2) からオ ンプレミス への手動 リバース レプリケー ション
Arcserve UDP 7.0 Update 2	0	-	0
Arcserve UDP 7.0 Update 1	0	-	0
Arcserve UDP 7.0	0	-	0
Arcserve UDP 6.5 Update 4	0	パッチ P00001738 の適用	0
Arcserve UDP 6.5 Update 3	0	6.5 Update 4 に更新	х

		してから	
Arcserve UDP 6.5 Update 2	0	パッチ	х
Arcserve UDP 6.5 Update 1	0	P00001738	Х
Arcserve UDP 6.5	0	を適用	Х
Arcserve UDP 6.0 (すべての Update)	х	-	Х

重要: Arcserve UDP コンソールのバージョンが Cloud Hybrid のバージョン以上であるかどうかを確認します。たとえば、Cloud Hybrid のバージョンが 7.0 Update 2 でも、コンソールのバージョンが 6.5 である場合、プランの作成 や既存 のプランの変更を行って、オンプレミスでリモートで管理された RPS へのレプリケート タスクを追加または変更すると、エラーメッセージが表示されます。次のメッセージが表示されます: コンソールのバージョンが古くなっています。コンソールをアップグレードしてやり直してください。

プランを保存するには、v6.5 Update 4 のオンプレミス コンソールにパッチ <u>P00001738</u>を適用します。

第2章: バックアップ サービスとしての Cloud Hybrid の使用

Arcserve UDP Cloud Hybrid (BaaS)では、以下の機能を実行できます。

- オンプレミス RPS (Recovery Point Server、復旧ポイント サーバ) から Cloud Hybrid の対応 する RPS にバックアップ イメージをレプリケートします。
- Cloud Hybrid RPS からオンプレミス RPS にファイル/フォルダをリストアおよびダウンロードします。
- Cloud Hybrid に Microsoft Office 365 Exchange Online、SharePoint Online、 または OneDrive データを保護 するプランを作成します。
- Cloud Hybrid から Office 365 サーバこ Office 365 Exchange Online、SharePoint Online データをリストアします。
- Arcserve UDP Cloud Hybrid からローカル ディスクに Microsoft Office 365 OneDrive ドライブをエクスポートします。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Cloud Hybrid 復旧ポイントサーバへのデータのレプリケート	22
Cloud Hybrid からのファイルおよびフォルダのダウンロード/復旧	25
Microsoft Office 365 データを Cloud Hybrid に保護するプランの作成	29
インスタント仮想ディスクを使用してアシュアード リカバリを実行する方法	30
Arcserve UDP Cloud Hybrid からの保護されている Microsoft Office 365 データ	の復
TB	

第2章: バックアップ サービスとしての Cloud Hybrid の使用 21

Cloud Hybrid 復旧ポイントサーバへのデータのレプリケート

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- 共有プランを使用して保護された Windows ノード データをレプリケート する 方法
- 共有プランを使用して保護された Linux ノード データをレプリケートする方 法

共有プランを使用して保護された Windows ノード データをレプリケート する方法

異なる Arcserve UDP コンソールから管理されている Cloud Hybrid にある別の復旧ポイント サーバにバックアップ データをレプリケートできます。

新しいプランを作成し、後でレプリケートされた Cloud Hybrid プランにノードを移動します。

以下の手順に従います。

- 1. 電子メールで受信した認証情報を使用して、Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインします。
- 2. エージェントまたはエージェントレス バックアップ タスクを追 加した後、ローカル Arcserve UDP アプライアンスで Arcserve UDP プランを作成 または変 更し、『リモート 管理の RPS へのレプリケート]タスクを追加します。
- 3. **リモート 管理の RPS へのレプリケート**]タスクの **デスティネーション**]タブで、受信した電子メールの情報を使用して、リモート コンソール、ユーザ名、およびパスワードを追加します。

ポート: 8015

プロトコル: HTTPS

注:Cloud Hybrid にあるリモート コンソールでは、これらの認証情報が検証されます。

4. ネットワークでインターネット プロキシが使用されている場合は、**プロキシの有効 化**]を選択し、ネットワーク仕様に合わせて設定します。

注: この情報は変わる可能性があり、ローカルネットワークからインターネットにアクセスするようにブラウザを設定することと同様です。

- 5. **接続**]をクリックして、Cloud Hybrid の RPS サーバへの接続を検証します。
- 6. プラン]ドロップダウン リストから、Cloud Hybrid RPS サーバからのレプリケーション プランを選択します。

注:選択されたプランは、企業のCloud Hybrid RPS サーバからの共有プランです。

7. 保存]をクリックすると、次のバックアップ後にデータがレプリケートされます。

デフォルトでは、バックアップの完了後にノードレプリケーションが開始され、ノードからの復旧ポイントが Cloud Hybrid RPS サーバにレプリケートされます。 スケジュールを変更 するため、レプリケーション スケジュールを追加できます。

共有プランを使用して保護された Linux ノード データをレプリケート する方法

Arcserve UDP では、プランを作成し、Linux バックアップ セッションを復旧ポイントサーバに保存することができます。また、Arcserve UDP では、Cloud Hybrid にある別のRPS への Linux 復旧ポイントのレプリケーションが可能です。

以下の手順に従います。

- 1. 受信した電子メールに記載されている認証情報を使用して、Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインします。
- 2. エージェントまたはエージェントレス バックアップ タスクを追 加した後、ローカル Arcserve UDP アプライアンスで Arcserve UDP プランを作成 または変 更し、『リモート 管理の RPS へのレプリケート] タスクを追加します。
- 3. 『リモート 管理の RPS へのレプリケート] タスクの 「デスティネーション] タブで、受信した電子 メールの情報を使用して、リモート コンソール、ユーザ名、およびパスワードを追加します。

ポート: 8015

プロトコル: HTTPS

注: これらの認証情報は、Cloud Hybrid にあるリモート コンソールで検証されます。

4. ネットワークでインターネット プロキシが使用されている場合は、**プロキシの有効 化**]を選択し、ネットワーク仕様に合わせて設定します。

注: この情報は変わる可能性があり、ローカルネットワークからインターネットにアクセスするようにブラウザを設定することと同様です。

- 5. **接続**]をクリックして、Cloud Hybrid の RPS サーバへの接続を検証します。
- 6. 「プラン」ドロップダウン リストから、Cloud Hybrid RPS サーバからのレプリケーション プランを選択します。

注:選択されたプランは、企業のCloud Hybrid RPS サーバからの共有プランです。

7. 保存]をクリックすると、次のバックアップ後にデータがレプリケートされます。

デフォルトでは、バックアップの完了後にノードレプリケーションが開始され、ノードからの復旧ポイントが Cloud Hybrid RPS サーバにレプリケートされます。 スケジュールを変更 するため、レプリケーション スケジュールを追加 できます。

Cloud Hybrid からのファイルおよびフォルダのダウンロード/復旧

Arcserve UDP Windows/Linux エージェント ブラウザで、Cloud Hybrid からデータをダウンロードできます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- <u>Microsoft Windows ファイル システムを使用して Cloud Hybrid からファイルと</u>フォルダをダウンロード する方法
- Cloud Hybrid からファイルとフォルダを復旧する方法

Windows ファイル システムを使用して Cloud Hybrid からファイルとフォルダをダウンロード する方法

Cloud Hybrid では、以下の方法を使用して、Windows ファイルシステムからファイルおよびフォルダをダウンロードできます。

以下の手順に従います。

- 1. Windows ファイル システムのブラウザから Cloud Hybrid を開きます。
- 2. 左側のペインの **デスティネーション**]メニューを展開して、 **復旧ポイント** サーバ オプションを選択します。
- 3. ファイル/フォルダのダウンロード 元 の復 旧ポイント サーバを選択します。
- 4. 目的の復旧ポイントサーバをダブルクリックします。 データストアリストが表示されます。
- 5. 特定のデータストアを右クリックして、 **復旧ポイントの参照**]をクリックします。

データストアの [サマリ]ページが表示され、特定のノードに割り当てられたプランに基づいて保護されたノードが表示されます。

- 6. 目的のプランをダブルクリックし、目的のノードを選択します。
- 7. 特定のプランを右クリックし、**リストア**]をクリックします。 選択したノードの**リストア**]ウィザードが表示されます。
- 8. **復 旧ポイントの参** 照]オプションをクリックします。**復 旧ポイントの参** 照]ダイアログ ボックスが表 示されます。
- 9. ファイル/フォルダをダウンロード する必要 があるバックアップ イメージの復旧ポイント(日付および時間)を選択します。
- 10. ボリュームを展開してファイル/フォルダを参照します。 注: プロンプトで要求された場合、セッション パスワードを入力する必要があります。
- 11. ダウンロード アイコンをクリックします。

注: ファイルは元のファイルとしてダウンロードされ、フォルダは zip ファイルとしてダウンロードされます。

Windows ファイル システムの選択 したファイル/フォルダが正常にダウンロードされます。

Cloud Hybrid からファイルとフォルダを復旧する方法

Arcserve は、Cloud Hybrid から、SFTP クライアントを使用してローカル Arcserve UDP コンソールで作成されたマウント済み復旧ポイントにデータをリストアする機能を提供しています。

以下の手順に従います。

- FileZilla などの Arcserve UDP コンソール サーバ SFTP クライアントに接続し、 以下の手順を実行します。
 - a. 新しいサイトを作成し、FileZilla などの Arcserve UDP コンソール サーバ SFTP クライアントに接続します。
 - b. ウェルカム電子メールに記載されている Arcserve UDP コンソールサーバ名、ユーザ名、およびパスワードを指定します。

注: デフォルト ポート番号 - 37037 を指定します。

- c. **接続**]をクリックします。
- 2. 復 旧ポイントをマウントするには、以下の手順を実行します。
 - a. SFTP クライアントを最小化します。
 - b. 名前 Cloud Hybrid.
 - c. 左側のペインの **デスティネーション**]メニューから、 **復 旧ポイント サーバ**]オプションを選択します。
 - d. 目的の復旧ポイントサーバを選択して、データを復旧します。
 - e. 目的の復旧ポイントサーバをダブルクリックします。 データストアリストが表示されます。
 - f. 特定のデータストアを右クリックして、**復旧ポイントの参照**]をクリックします。

データストアの [サマリ]ページが表示され、特定のノードに割り当てられたプランに基づいて保護されたノードが表示されます。

- g. 目的のプランをダブルクリックし、目的のノードを選択します。
- h. 選択したノードを右クリックし、**『リストア**]をクリックします。 選択したノードの『リストア] ウィザードが表示されます。
- i. 『リストア]ダイアログ ボックスを閉じ、 **タスク**]ペインから **復 旧 ポイント のマウント**]を選 択します。

データストアおよびノードの情報が表示されます。

j. カレンダで、マウントするバックアップ イメージの日 付を選択します。

- k. マウントする復旧ポイントを選択します。
- マウントするボリュームまたはドライブを見つけて、「マウント」をクリックします。

注:ボリューム Z にドライブをマウントできます。

- m. 暗号化パスワードを指定し、[OK]をクリックします。 選択されたボリュームがマウントされ、 復旧ポイントのマウント]ダイアログボックスの [マウントされたボリューム]のリストに表示されます。
- 3. 以下の手順を実行し、ボリューム Z にマウントされた復旧ポイントを使用して、Cloud Hybrid からファイルおよびフォルダを復旧します。
 - a. SFTP クライアントを開き、作成されたサイトを選択して、マウントされた 復旧ポイントに接続します。
 - b. マウントされた復旧ポイントにドラッグすることで、Cloud Hybrid からファイルまたはフォルダを選択します。

Cloud Hybrid からファイルおよびフォルダが復旧されます。

Microsoft Office 365 データを Cloud Hybrid に保護するプランの作成

Microsoft Office 365 Exchange 保護は、Microsoft Exchange Online メールフォルダ およびアイテムをバックアップおよびリストアするのに使用されます。 Exchange オンライン コンテンツを保護 するには、プランの作成が必要です。

詳細については、「Exchange Online プランを作成する方法」を参照してください。

Microsoft Office 365 SharePoint 保護を使用して、Microsoft SharePoint Online サイトとリスト アイテムをバックアップおよびリストアします。 SharePoint Online は、Microsoft Office 365 の主要製品の1つです。 SharePoint コンテンツを保護するには、プランの作成が必要です。

詳細については、「SharePoint Online バックアップ プランを作成する方法」を参照してください。

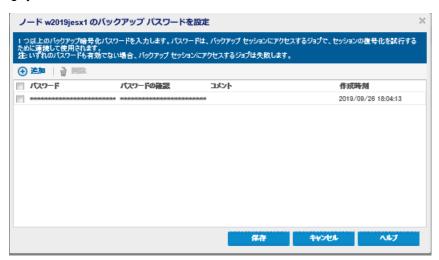
Microsoft Office 365 OneDrive 保護は、Microsoft OneDrive ファイルおよびフォルダアイテムをバックアップおよびリストアするのに使用されます。OneDrive は、Microsoft Office 365 の主要製品の1つです。OneDrive コンテンツを保護するには、プランの作成が必要です。

詳細については、「<u>Microsoft Office 365 OneDrive ノード バックアップ プランを作成</u>する方法」を参照してください。

インスタント 仮想 ディスクを使用してアシュアード リカバリを実行する方法

以下の手順に従います。

- 1. Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインし、アシュアード リカバリタスクを作成します。
- 2. **リソース**]タブ **ノード/すべてのノード**]に移動し、アシュアード リカバリタス クのノードを選択して、バックアップ パスワードを設定します。
 - 注: レプリケートされた復旧ポイントが確実に変換されるように、仮想スタンバイおよびリストアタスクのバックアップパスワードを設定する必要があります。指定されたバックアップパスワードは、オンプレミスソースノードをバックアップするのに使用されるプランで定義されているセッションパスワードと同じです。
- 3. ノードを右 クリックし、表 示 されたオプションから **「バックアップ パスワード の設 定**]を選 択します。
 - **[ノード XXX のバックアップ パスワードの設定**]ダイアログ ボックスが表示されます。



- 4. バックアップ パスワードを追加し、保存]をクリックします。
- 5. **「リソース**]タブで、**プラン/すべてのプラン**]を選択します。
- 6. レプリケーション プランを編集し、アシュアード リカバリ タスクとしてタスク 2 を 追加します。
 - 注:複数のバックアップパスワードを追加できます。
- 7. ソースを指定し、アシュアード リカバリテストに必要な復旧ポイントの種類を 選択します。

注: 最新の復旧ポイントのバックアップタイプを選択できます。

- 8. **テスト設定**]タブに移動します。
- 9. テストの種類]の タスク設定]を インスタント 仮想 ディスク] と指定し、以下の詳細を指定します。
 - ◆ Windows プロキシ サーバ: Cloud Hybrid の FQDN を入 力します。
 - ◆ 仮想ハード ディスクファイルフォルダの参照: F:\VMStorage
 注:上記のパスが利用できない場合、F:ドライブに VMStorage フォルダを手動で作成します。



- 10. 必要な **スケジュール**]設定を指定します。 注: プロキシ サーバにアクセスできないため、詳細設定のカスタム コマンドは サポートされません。
- 11. **保存** 「をクリックします。

変更が正常に保存され、アシュアード リカバリ タスクが自動的に展開されます。 レプリケーション ジョブの後、アシュアード リカバリ ジョブが自動的に実行され、スケ ジュール設定を使用して制御されます。

詳細情報:

ノード に対 するアシュアード リカバリ テスト の手 動 実 行 プランに対 するアシュアード リカバリ テスト の手 動 実 行

Arcserve UDP Cloud Hybrid からの保護されている Microsoft Office 365 データの復旧

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- Microsoft SharePoint Online サイト コレクション データをリストアする方法
- Microsoft Office 365 Exchange メールボックス データをリストアする方法
- Microsoft OneDrive データのリストア方法

Microsoft SharePoint Online サイト コレクション データ をリストアする方法

SharePoint Online リスト/ライブラリまたはサイトのリスト アイテムをリストアできます。 サイト コレクションとサイトは、Arcserve UDP v6.5 ではまだサポートされていません。 新しい名前で元のサイトにデータをリストアすること、元の場所にデータをリストアすること、および復旧ポイントからディスクにデータをエクスポートすることができます。

詳細については、「SharePoint Online サイト コレクション データをリストアする方法」を参照してください。

Microsoft Office 365 Exchange メールボックス データを リストアする方法

Microsoft クラウドから電子メール、予定表、連絡先、メモ、タスクなどの Exchange Online メールボックス データをリストアできます。元の場所や別の場所にデータをリストアしたり、復旧ポイントからディスクにエクスポートしたりすることができます。

詳細については、「Exchange Online メールボックス データをリストアする方法」を参照してください。

Microsoft OneDrive データのリストア方法

Microsoft OneDrive ファイルおよびフォルダをローカル ディスクにエクスポート できます。 リストア オプションを使 用してリストアすることができます。 詳 細 については、「Microsoft OneDrive データをリストアする方 法」を参 照してください。

また、エージェント ユーザ インターフェースから 「ボリュームのマウント] オプションを使用してリストアすることもできます。 詳細 については、「Cloud Hybrid からファイルとフォルダを復旧する方法」を参照してください。

第3章: 惨事復旧サービスとしての Cloud Hybrid の使用

重要: Cloud Hybrid Compute Service を使用するには、すでに Cloud Hybrid RPS で利用可能なバックアップが用意されている必要があります。詳細については、「Cloud Hybrid 復旧ポイントサーバにデータをレプリケートする方法」を参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Linux ファイル システムを使用して Cloud Hybrid からファイルとフォルダをダウンロード する方法	38
 仮想スタンバイを使用した Cloud Hybrid での惨事復旧システムの実行	
インスタント VM を使用した Cloud Hybrid での惨事復旧テストの実行	. 48
アシュアード リカバリを使用した Cloud Hybrid での惨事復旧のテストの自動化	68
Cloud Hybrid の惨事復旧システムへの接続	. 76

第3章: 惨事復旧サービスとしての Cloud Hybrid の使用 37

Linux ファイル システムを使用して Cloud Hybrid からファイルとフォルダをダウンロード する方法

Cloud Hybrid では、Linux ファイル システムからファイルとフォルダをダウンロード できます。

注: Cloud Hybrid BaaS では、<u>手動リバースレプリケーション</u>による Cloud Hybrid からの Linux ファイル リストアが可能です。

以下の手順に従います。

- 1. Linux ファイル システムのブラウザで Arcserve UDP Agent for Linux Web インターフェースを開きます。
- 2. **ウィザード**]メニューの **リストア**]をクリックし、 **復 旧 ポイント のマウント**]を選択します。

リストア ウィザード - 復 旧 ポイントのマウント]が開きます。

- 3. ドロップダウン リストから、データ ストアおよびノードを選択します。
- 4. **O**K **?** をクリックします。
- 5. バックアップ イメージの復旧ポイント(日付と時刻)を選択します。
- 6. **復旧ポイントの共有方法**]ドロップダウン リストから [WebDAV]オプション選択します。
- 7. ユーザ名 /パスワードを設 定し、マウント ジョブをサブミットします。
- 8. URLを開き、ファイルをダウンロードします。

ダウンロード URL は https://<your-cloudhybrid-FQDN>:8018/share/<username for mount>/ です。

Linux ファイルシステムの選択したファイル/フォルダが正常にダウンロードされます。

仮想スタンバイを使用した Cloud Hybrid での惨事復旧システムの実行

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- 惨事復旧システムで Hyper-V サーバを使用する方法
- 仮想スタンバイを使用して Cloud Hybrid のデータを復旧する方法

惨事復旧システムで Hyper-V サーバを使用する方法

Hyper-V サーバおよび Arcserve UDP サーバに対して同じサーバ設定が利用可能であるため、以下の考慮実行によって、Arcserve UDP サーバに影響を与えることなく Hyper-V サーバの仮想マシンを作成できます。

- 他のドライブはオペレーティングシステムおよび Cloud Hybrid 用に予約されているため、F:\VMStorage フォルダを使用して仮想マシンを格納します。デフォルトの仮想マシンパスは、F:\VMStorage に設定されています。
- 仮想マシンが DHCP から IP アドレスを取得するのに役立つ Arcserve_ Private_Cloud ネットワークを使用します。
- 仮想マシンの実行のためにシステムメモリが消費されるため、Arcserve UDP データストアの使用のためにメモリを予約する必要があります。システムメモ リの使用状況を監視するには、「データストア」ページに移動します。

仮想スタンバイを使用して Cloud Hybrid のデータを復旧する方法

Arcserve では、仮想スタンバイタスクを使用して、Cloud Hybrid で実行されているスタンバイ仮想マシンの電源をオンにする機能が提供されます。

注: ハイパーバイザの詳細については、Arcserve サポートにお問い合わせください。

以下の手順に従います。

1. Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインし、仮想スタンバイタスクをセットアップします。

注: Cloud Hybrid のログインに関する詳細については、ウェルカム電子メールを参照してください。

2. **リソース**]タブ - **ノード/すべてのノード**]に移動し、仮想スタンバイタスクのノードを選択して、バックアップパスワードを設定します。

注: レプリケートされた復旧ポイントが確実に変換されるように、仮想スタンバイおよびリストアタスクのバックアップパスワードを設定する必要があります。指定されたバックアップパスワードは、オンプレミスソースノードをバックアップするのに使用されるプランで定義されているセッションパスワードと同じです。

3. ノードを右クリックし、[バックアップパスワードの設定]を選択します。

レード XXX のバックアップ パスワードの設定 「ダイアログ ボックスが表示されます。



- 4. 1 つ以上のバックアップパスワードを追加し、保存]をクリックします。
- 5. **リソース**]タブで、**プラン/すべてのプラン**]を選択します。
- 6. レプリケーション プランを編集し、仮想スタンバイとしてタスク2を追加します。
- 7. **仮想化サーバ** タブで、以下の詳細を入力します。

仮想化の種類: Hyper-V

Hyper-V ホスト名: Cloud Hybrid FQDN または IP アドレスを入力します。

ユーザ名: Cloud Hybrid ユーザ名を入力します。

パスワード: Cloud Hybrid パスワードを入力します。

プロトコル: HTTPS

ポート: 8014

8. **接続**]をクリックします。



- 9. **仮想マシン**]タブで、以下の情報を入力します。
 - a. 仮想スタンバイ VM に必要な適切な CPU 数とメモリを入力します。

注:購入した Cloud Hybrid Compute サブスクリプションに基づいて、CPU 数とメモリ割り当てを指定します。

b. Hyper-V 上の仮想スタンバイ VM について、以下のパスを指定する必要があります。

F:\VMStorage

注:上記のパスはすべての仮想ディスクで使用できるわけではないため、 「すべての仮想ディスクが同じパスを共有する]オプションをオフにしないでください。

c. ネットワークを指定するには、「アダプタの種類」ドロップダウンリストから 「ネットワーク アダプタ」を、「接続先」ドロップダウンリストから「Arcserve_Private_Cloud」選択し、ネットワークに接続します。



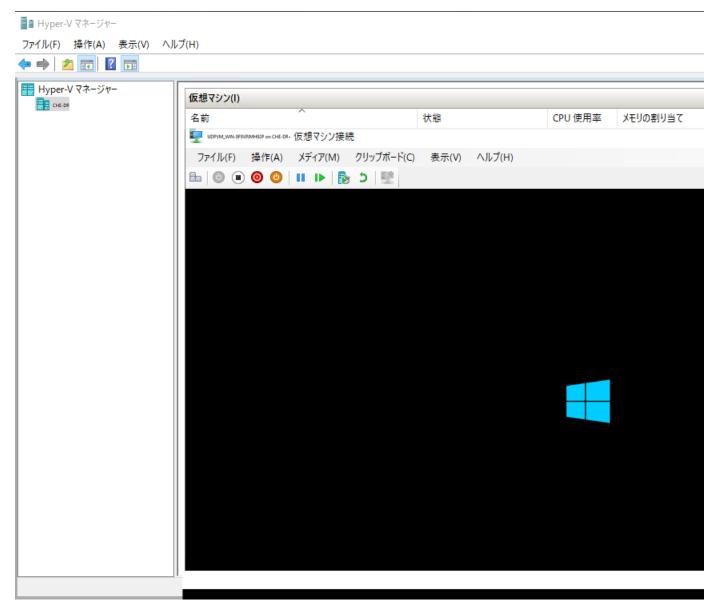
10. レプリケーション プランを右 クリックし、表 示 されたオプションから Pause and resume (一時停止と再開)]を選択し、復旧ノードのハイパーバイザにアタッチされたすべてのノードの復旧ポイント変換を開始します。



11. Cloud Hybrid 仮 想 スタンバイ(タスク 2) で復 旧 ポイントの仮 想 マシンへの変 換 が 完 了 した後、Arcserve UDP コンソールの左 側 のペインにある 阪 想 スタンバイ]メニューから、Cloud Hybrid 仮 想 スタンバイ VM を開 始 または停止 し、Cloud Hybrid で利 用 可 能 な仮 想 スタンバイ ユーザ インターフェースで仮 想 マシン ネットワークを 設 定します。



12. **VM の電源をオンにする**]をクリックします。



仮想スタンバイ VM が稼働し、実行中になりました。

詳細情報:

Cloud Hybrid で実行中の本番仮想スタンバイ VM の保護Cloud Hybrid で実行中の本番仮想スタンバイ VM をローカル サーバに復旧する

Cloud Hybrid で実行中の本番仮想スタンバイ VM の 保護

Cloud Hybrid では、Cloud Hybrid で実 行 中 の本 番 仮 想 スタンバイ マシンを保 護 できます。

以下の手順に従います。

- 1. Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインします。
- 2. ウェルカム電子メールに記載されている、ハイパーバイザの IP アドレスを指定し、 仮想 スタンバイ VM またはノードを追加または検出します。
- 3. **タスク 1**]を使用し、エージェントレス バックアップを使用して新しいプラン(たとえば、クラウド バックアップ プラン)を作成します。

注: 不注意による復旧ポイントを回避するには、ローカルジョブから本番ノードを削除することを検討します。

- 4. ハイパーバイザからノードを追加します。
- 5. デスティネーションとして Cloud Hybrid の RPS データ ストアを使用します。
- 6. バックアップジョブの スケジュール]タブとその他 の設 定 を確 認します。
- 7. **保存**]をクリックします。

本番仮想スタンバイマシンが正常に保護されました。

Cloud Hybrid で実行中の本番仮想スタンバイ VM をローカル サーバに復旧する

Cloud Hybrid で実 行 中 の仮 想 スタンバイ マシンをローカル環 境 に再 構 築 またはリストアできます。 オンサイトのオンプレミス RPS に仮 想 スタンバイ マシンをレプリケートし、 すべての変 更 と共 に、 最 新 の/最 も近 い状 態 からリストアします。

- 1. 仮 想 スタンバイ VM のバックアップを実 行して、データの整 合 性 を確 保します。 注: ローカルノード が復 旧 するまで、仮 想 スタンバイ VM をシャット ダウンすることを お勧 めします。
- 3. BMR (Bare Metal Recovery、ベアメタル復旧)を実行して、VMを復旧します。
- 4. ローカル サーバを本番 バックアップ ジョブに再度 追加します。 仮想 スタンバイ VM がローカル サーバに復旧されました。

インスタント VM を使用した Cloud Hybrid での惨事復旧テストの実行

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- Cloud Hybrid で Linux バックアップ サーバを追加 する方法
- Cloud Hybrid インスタント 仮想 マシンを作成 する方法

Cloud Hybrid で Linux バックアップ サーバを追加する 方法

- 1. Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインします。
- 2. 左ペインから、**すべてのノード**]を選択します。 ノードのリストが中央のペインに表示されます。
- 【ノードの追加]をクリックします。
 【Arcserve UDP コンソールへのノード追加]ダイアログ ボックスが表示されます。
- 4. **[ノードの追加**]ドロップダウン リストから、**[Linux バックアップ サーバノードの 追加**]を選択します。



5. 以下のLinux バックアップ サーバノードの詳細を入力します。

ノード名 /IP アドレス: Cloud Hybrid のパブリック IP

ポート: 8018

プロトコル: https

6. リストに追加]をクリックします。

ノードが右ペインに追加されます。

- 7. (オプション) 追 加 されたノードを削 除 するには、右 側 のペインでノードを選択し、**削除**]をクリックします。
- 8. 追加するノードを選択して 保存]をクリックします。
- 9. **[ノード**] に移動し、**すべてのノード**] を選択して、追加されたノードを表示します。

ノードが正常に追加されました。

Cloud Hybrid インスタント 仮想マシンを作成する方法

インスタント 仮 想 マシン(インスタント VM) では、ハイパーバイザで仮 想 マシンを作成し、事前の変換なしで仮想マシン内のバックアップ セッションを実行します。

インスタント 仮想マシンのメリット:

- Arcserve UDP バックアップ セッション内 で利用可能なデータおよびアプリケーションにすぐにアクセスできます。
- 従来のリストアまたはバックアップ セッションを物理 マシンまたは仮想 マシンに変換 することに関連して発生 するダウンタイムが排除されます。

Cloud Hybrid の RPS サーバで以下 のバックアップ セッションからインスタント VM を作成できます。

- エージェント ベースの Windows バックアップ
- エージェント ベースの Linux バックアップ
- ホスト ベースのエージェントレス バックアップ

インスタント VM を作成する方法:

- 1. Cloud Hybrid でインスタント VM ウィザードを開く
- 2. Windows システムでのインスタント VM ウィザードを使用したインスタント VM の設定
- 3. Linux システムでのインスタント VM ウィザードを使用したインスタント VM の設定
- 4. インスタント VM の作成

Cloud Hybrid でインスタント VM ウィザードを開く

Cloud Hybrid でインスタント VM ウィザードを使用して、インスタント VM を設定、作成することができます。2 つのオプションのいずれかを使用して、インスタント VM ウィザードを開きます。

- ノード管理を使用してインスタント VM ウィザードを開く方法
- デスティネーション管理を使用してインスタント VM ウィザードを開く方法

ノード管理を使用してインスタント VM ウィザードを開く 方法

Cloud Hybrid で利用可能なノードを使用すると、インスタント VM ウィザードを開くことができます。

- 1. Cloud Hybrid の RPS コンソール ノード管理 ビューからウィザードを開きます。
- 2. **「リソース**] タブをクリックします。
- 3. 左ペインから、適切なサイトを選択し、[ノード]に移動して、「すべてのノード]をクリックします。
 - すべてのノードが中央のペインに表示されます。
- 4. ノードを右 クリックし、表 示 されたオプションから **インスタント VM の作 成**]を選 択します。
 - **注:** [インスタント VM の作成]オプションは、ノードが少なくとも 1 つのプランに関連付けられている場合にのみ動作します。
 - インスタント VM ウィザードを開きます。

デスティネーション管理を使用してインスタント VM ウィザードを開く方法

Cloud Hybrid で利用可能なデスティネーションを使用すると、インスタント VM ウィザードを開くことができます。

- 1. Cloud Hybrid の RPS コンソール デスティネーション管 理 ビューからウィザード を開きます。
- 2. デスティネーション] **復 旧ポイント サーバ**]の順に移動します。
- 3. **リソース**]タブをクリックします。
- 4. 左ペインから、目的のサイトを選択し、「デスティネーション] に移動し、 **復旧ポイント サーバ**]をクリックします。
 - 以前追加したデータストアが中央ペインに表示されます。
- 5. 目的のデータストアをクリックします。
 - RPS にデータをすでにバックアップしている場合、すべてのソースノードがペインに表示されます。
- 6. ノードを右 クリックし、 [インスタント VM の作成]を選択します。
 - インスタント VM ウィザードを開きます。

Windows システムでのインスタント VM ウィザードを使用したインスタント VM の設定

インスタント VM ウィザードを使用して、作成前に詳細を入力することで、インスタント VM を設定できます。 インスタント VM を設定するには、以下の手順に従います。

1. 復旧ポイントの選択

コンソールは自動的に復旧ポイントの場所を認識し、ロケーションタイプ、Cloud Hybrid の復旧ポイントサーバ、データストアが事前に選択されます。

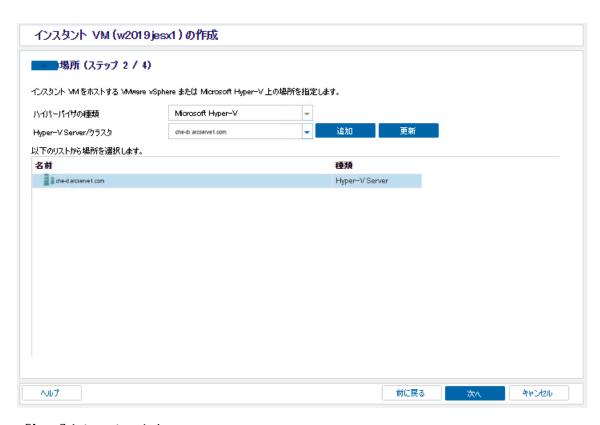


旧付]リストを展開し、必要な復旧ポイントをリストから選択して 次へ]をクリックします。 [vm の場所]ページが表示されます。

2. VM の場所の選択

インスタント VM を作成する仮想マシンの場所を指定します。Cloud Hybrid内の Microsoft Hyper-V仮想マシンを指定できます。

- a. [ハイパーバイザの種類]として [Hyper-V]を選択し、 **追加**]をクリックします。
- b. [VM デスティネーションの指定]ダイアログ ボックスで、ウェルカム電子 メールに記載されている Hyper-V サーバの IP アドレスと認証情報を入力し、[OK]をクリックします。



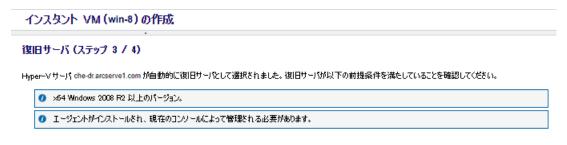
c. **次へ**]をクリックします。

復旧サーバ]ページが開きます。

3. 復旧サーバの選択

復旧サーバは、インスタント VM のコア モジュールをホストします。 デフォルトの復旧サーバは、Cloud Hybrid で提供されている Hyper-V です。

Linux バックアップ セッションの場合、復旧サーバは Arcserve Business Continuity Cloud で提供されている Linux バックアップ サーバです。



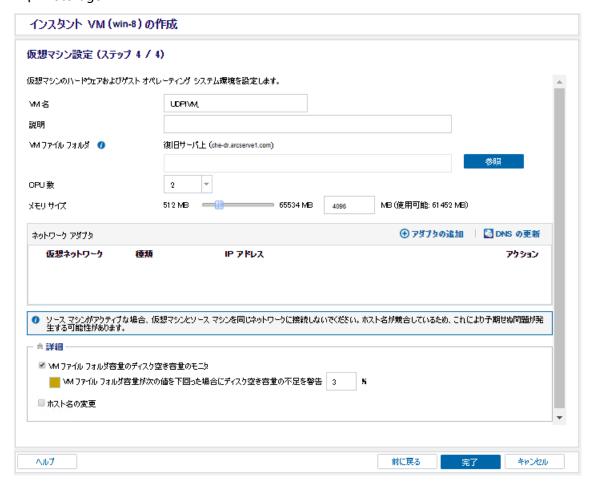
次へ]をクリックすると、「インスタント VM 詳細]ページが表示されます。

4. 仮想マシンの詳細の指定

以下の手順に従います。

- a. インスタント VM の名前と説明を指定します。
- b. 復旧サーバ上のインスタント VM のフォルダの場所を指定します。 Hyper-V ディスクの場所について、以下のパスを指定する必要があり ます。

F:\VMStorage



- c. 以下のインスタント VM 設定を指定します。
 - ◆ インスタント VM に必要な CPU の数を示す [CPU 数]。
 - ◆ インスタント VM に必要なメモリのサイズを示す 「メモリ サイズ」。 注:購入した Cloud Hybrid Compute サブスクリプションに基づい て、CPU 数とメモリ割り当てを指定します。
- d. ネットワークを指定するには、「仮想ネットワーク」ドロップダウンリストから [Arcserve_Private_Cloud]を、「アダプタの種類]ドロップダウンリストから 「ネットワークアダプタ」選択し、IVM をネットワークに接続します。



- e. **[OK**]をクリックします。
- f. [VM ファイル フォルダ容 量 のディスク空 き容 量 のモニタ] チェック ボック スをオンにすることをお勧 めします。
- g. (オプション) インスタント 仮想 マシン ホスト名 を変更します。

これで、ジョブをサブミットし、インスタント VM を作成する準備ができました。

Linux システムでのインスタント VM ウィザードを使用したインスタント VM の設定

インスタント VM ウィザードを使用して、作成前に詳細を入力することで、インスタント VM を設定できます。 インスタント VM を設定するには、以下の手順に従います。

1. Linux バックアップ サーバの追加

詳細については、「Cloud Hybrid で Linux バックアップ サーバノードを追加する方法」を参照してください。

2. 復旧ポイントの選択

コンソールは自動的に復旧ポイントの場所を認識し、ロケーションタイプ、Cloud Hybrid の復旧ポイントサーバ、データストアが事前に選択されます。

AJJ/7

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定 | ハイアベイラビリティ インスタント VM(35.17)の作成 復旧ポイントを選択 (ステップ 1 / 4) このノードによって使用されている場所がら復旧ポイントを参照します。 ロケーションタイプ RPS 上のデータストア 復旧ポイントサーバ データ ストア VMを開始する復旧ポイントを選択します。 時刻 アシュアードリカバリ バッケアップの種類 バッ 日付 セッション名 4 最新 2019/09/12 S0000000010 2019/09/12 22:00:15 増分 今日 昨日 過去7日間 调夫 30 日間 30 田経過

旧付]リストを展開し、必要な復旧ポイントをリストから選択して 次へ]をクリックします。

注: バックアップ セッションが暗号 化されている場合、パスワード プロンプトが表示されます。

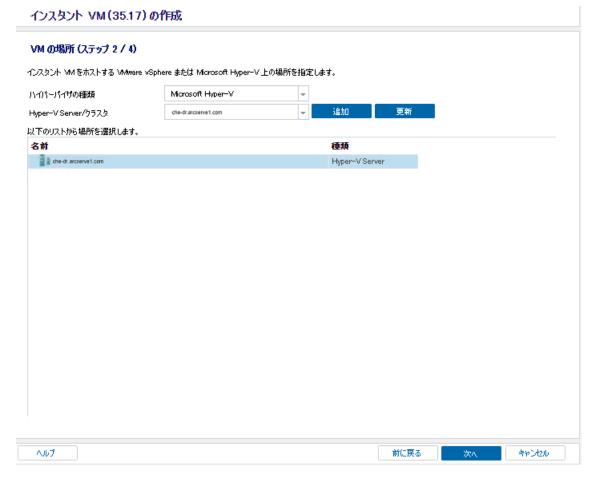
[VM の場所]ページが表示されます。

3. VM の場所の選択

インスタント VM を作成する仮想マシンの場所を指定します。Cloud Hybrid内の Microsoft Hyper-V仮想マシンを指定できます。

以下の手順に従います。

- a. [ハイパーバイザの種類]として [Hyper-V]を選択し、 追加]ボタンをクリックします。
- b. [VM デスティネーションの指定]ダイアログ ボックスで、ウェルカム電子 メールに記載されている Hyper-V サーバの IP アドレスと認証情報を入力し、[OK]をクリックします。



c. **次へ**]をクリックします。

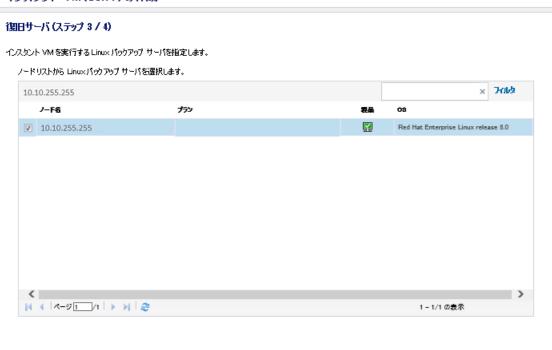
復旧サーバーページが開きます。

4. 復旧サーバの選択

復旧サーバは、インスタント VM のコアモジュールをホストします。デフォルトの復旧サーバは、Cloud Hybrid で提供されている Hyper-V です。

Linux バックアップ セッションの場合、復旧サーバは Arcserve Business Continuity Cloud で提供されている Linux バックアップ サーバです。

インスタント VM(35.17)の作成



ヘルプ 前に戻る 次へ キャンセル

) 次へ]をクリックすると、 [インスタント VM 詳細]ページが表示されます。

5. 仮想マシンの詳細の指定

以下の手順に従います。

- a. インスタント VM の名前と説明を指定します。
- b. [VM] ファイル フォルダの指定]が選択されている場合、以下のパスを指定します。

F:\VMStorage



- c. 以下のインスタント VM 設定を指定します。
 - ◆ インスタント VM に必要な CPU の数を示す [CPU 数]。
 - ◆ インスタント VM に必要なメモリのサイズを示す 「メモリ サイズ」。 注:購入した Cloud Hybrid Compute サブスクリプションに基づいて、CPU 数とメモリ割り当てを指定します。
- d. ネットワークを指定するには、「仮想ネットワーク」ドロップダウンリストから [Arcserve_Private_Cloud]を、「アダプタの種類]ドロップダウンリストから 「ネットワークアダプタ」選択し、IVM をネットワークに接続します。



- e. **OK** をクリックします。
- f. (オプション) インスタント 仮想 マシン ホスト名 を変更します。
- g. ホスト ベース バックアップでは、 [インスタント VM の再起動後に自動 的にデータを復旧する]を選択して、インスタント VM を独立した VM に変換することをお勧めします。

これで、ジョブをサブミットし、インスタント VM を作成 する準備 ができました。

注: Linux インスタント VM の [自動復旧の再開]オプションは、ホスト ベース バックアップにのみ適用可能です。

インスタント VM の作成

設定が完了したら、前のステップで作成したジョブをサブミットし、インスタント VM を作成できます。ジョブが完了したら、インスタント VM が 「リソース]- 「インフラストラクチャ] - 「インスタント 仮想マシン」に表示されます。

以下の手順に従います。

- 1. サブミット するには、 **[VM の作成**]をクリックします。 **[VM の作成**]ダイアログ ボックスが表 示されます。
- 2. 以下のオプションから1つを選択します。

今すぐに起動

インスタント VM を作成するジョブをサブミットします。VM が作成されたら、VM が自動的に起動されます。

後で起動

インスタント VM を作成します。 VM を手動で開始する必要があります。 インスタント VM ジョブが完了した後、 VM を起動できます。

キャンセル

VM が作成されることなく [VM の作成] ダイアログ ボックスが閉じられ、 「VM の作成]ページに自動的にリダイレクトされます。

インスタント VM ジョブが正常に作成されました。

Cloud Hybrid インスタント 仮想マシンを管理する方法

インスタント VM は、Cloud Hybrid から管理できます。インスタント VM の電源オンまたはオフ、および削除ができます。

注: Cloud Hybrid には、選択したサイトで管理されている復旧ポイントから作成されたインスタント VM のみが表示されます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- インスタント 仮想 マシンの開始 と停止
- インスタント 仮想 マシンの削除

インスタント仮想マシンの開始と停止

インスタント VM の作成時に、開始または停止できます。VM のステータスに従って、開始ボタンまたは停止ボタンが表示されます。

- 1. Cloud Hybrid から、 「リソース] をクリックします。
- 2. [インフラストラクチャ]に移動し、[インスタント仮想マシン]をクリックします。
- 3. 目的の仮想マシンを中央ペインから選択し、「アクション]をクリックします。
- 4. 仮 想 マシンのステータスに従って、 [パワーオン] または [パワーオフ] を選 択します。 仮 想 マシンが正 常 に開 始 または停止 されました。

インスタント 仮想マシンの削除

インスタント VM を削除できます。

以下の手順に従います。

- 1. Cloud Hybrid から、「リソース]をクリックします。
- 2. 「インフラストラクチャ]に移動し、「インスタント仮想マシン]をクリックします。
- 3. 仮想マシンを中央ペインから選択し、「アクション]をクリックします。
- 4. 削除]をクリックします。

確認のダイアログ ボックスが表示されます。

5. **[OK**]をクリックします。

仮想マシンが正常に削除されました。

アシュアード リカバリを使用した Cloud Hybrid での惨事復旧のテストの自動化

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- バックアップ データのアシュアード リカバリを実行 する方法
- (オプション) アシュアード リカバリテスト ジョブを手動で実行する方法

バックアップ データのアシュアード リカバリを実行する方 法

データのアクセシビリティとアシュアード リカバリを確認 するには、アシュアード リカバリ プランを作成します。アシュアード リカバリのプランは、バックアップ/レプリケーション プランに基づいています。

以下の手順に従います。

- 1. Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインし、アシュアード リカバリタスクを作成します。
- 2. **リソース**]タブ **ノード/すべてのノード**]に移動し、アシュアード リカバリタス クのノードを選択して、バックアップ パスワードを設定します。

注: レプリケートされた復旧ポイントが確実に変換されるように、仮想スタンバイおよびリストアタスクのバックアップパスワードを設定する必要があります。 指定されたバックアップパスワードは、オンプレミスソースノードをバックアップするのに使用されるプランで定義されているセッションパスワードと同じです。

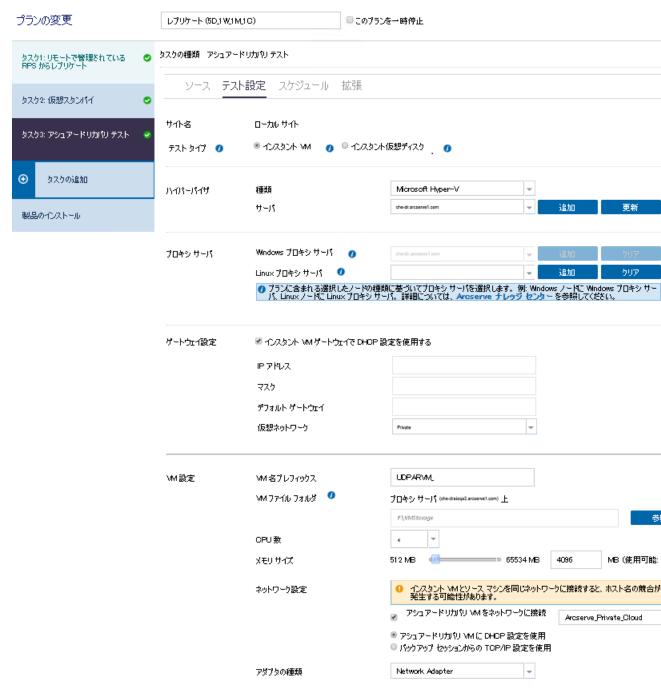
3. ノードを右 クリックし、表 示 されたオプションから **[バックアップ パスワード の設** 定]を選 択します。

[ノード XXX のバックアップ パスワードの設定]ダイアログ ボックスが表示されます。



- 4. バックアップ パスワードを追加し、保存]をクリックします。
- 5. 「リソース]タブで、 プラン/すべてのプラン]を選択します。
- 6. レプリケーション プランを編集し、アシュアード リカバリ タスクとしてタスク 2 を 追加します。
 - 注:複数のバックアップパスワードを追加できます。

- 7. ソースを指定し、アシュアード リカバリテストに必要な復旧ポイントの種類を 選択します。
 - 注: 最新の復旧ポイントのバックアップタイプを選択できます。
- 8. **テスト設定**]タブに移動します。
- - 注: [ゲートウェイ設 定] オプションは Linux ノードにのみ適用可能です。ここでは、[インスタント VM ゲートウェイで DHCP 設定を使用する] チェック ボックスをオンにする必要があります。



- 10. アシュアード リカバリ VM 設定、スケジュール、および拡張設定で、以下の詳細を指定します。
 - a. アシュアード リカバリ VM に必要な適切な CPU 数とメモリを入力します。

注:購入した Cloud Hybrid Compute サブスクリプションに基づいて、 CPU 数とメモリ割り当てを指定します。 b. Hyper-V サーバ上のアシュアード リカバリ VM のフォルダの場所を指定します。 Hyper-V ディスクの場所について、以下のパスを指定する必要があります。

F:\VMStorage

- c. ネットワークを指定するには、「アダプタの種類]ドロップダウンリストから 「ネットワークアダプタ」を、ネットワーク接続について「Connect Assured Recovery VM to (アシュアードリカバリVM の接続先)]ドロップダウンリストから「Arcserve_Private_Cloud]選択します。
- 11. 保存]をクリックします。

変更が正常に保存され、アシュアード リカバリ タスクが自動的に展開されます。 レプリケーション ジョブの後、アシュアード リカバリ ジョブが自動的に実行され、スケ ジュール設定を使用して制御されます。

詳細情報:

(オプション) アシュアード リカバリ テスト ジョブを手動で実行する方法

アシュアード リカバリ テスト ジョブを手動で実行する方法

Arcserve UDP では、スケジュールされたテストに加えて、ノードおよびプランのアシュアード リカバリテストの手動実行が可能です。

注:

- エージェント ベースおよびホスト ベースの Linux マシンで MSP レプリケーション タスクの後 にアシュアード リカバリ タスクが設 定 されると、アドホック アシュアード リカバリ ジョブがトリガに失 敗し、例 外 が表 示 されます。ただし、スケ ジュールされたアシュアード リカバリ ジョブを手動 で実 行 できます。
- MSP レプリケーション タスクの後 にアシュアード リカバリ タスクが設 定 された場合、ホスト ベースのエージェントレス Linux マシンのスケジュールされたアドホック アシュアード リカバリ ジョブは、セッション パスワード が存 在 する場合 にサポートされません。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- ノードに対するアシュアード リカバリテストの手動実行
- プランに対するアシュアード リカバリテストの手動実行

ノードに対するアシュアード リカバリ テストの手動実行

重要: MSP レプリケーション タスクの後 にアシュアード リカバリ タスクが設 定 された場合、Linux マシンのスケジュールされたアドホック アシュアード リカバリ ジョブがサポートされません。

ノードに対してアシュアードリカバリテストを手動で実行できます。

以下の手順に従います。

- 1. Arcserve UDP コンソールから [リソース]タブをクリックします。
- 2. 左ペインから、[ノード]に移動し、「すべてのノード]をクリックします。
- 3. 中央のペインから、アシュアード リカバリ プランが割り当 てられているノードを 選択し、「**アクション**]をクリックします。
- 4. 表示されたオプションから、「アシュアード リカバリテストを今すぐ実行]をクリックします。

「アシュアード リカバリ」ダイアログ ボックスが開きます。

5. アシュアード リカバリ タスクと復 旧 ポイントを選択し、 [OK]をクリックします。

ノードのアシュアードリカバリテストが正常に実行されました。

プランに対するアシュアードリカバリテストの手動実行

プランに対してアシュアードリカバリテストを手動で実行できます。

以下の手順に従います。

- 1. Arcserve UDP コンソールから 「リソース」 タブをクリックします。
- 2. 左ペインから、**プラン**]に移動し、**すべてのプラン**]をクリックします。
- 3. 中央のペインから、アシュアード リカバリ プランが割り当 てられているノードを 選択し、**アクション**]をクリックします。
- 4. 表示されたオプションから、**アシュアードリカバリテストを今すぐ実行**]をクリックします。
 - 「アシュアード リカバリ」ダイアログ ボックスが開きます。
- 5. アシュアード リカバリ タスクと復 旧 ポイントを選 択し、 [OK]をクリックします。
- プランのアシュアードリカバリテストが正常に実行されました。

Cloud Hybrid の惨事復旧システムへの接続

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- 惨事復旧システムでネットワーク設定を使用する方法
- 惨事復旧システムの Hyper-V サーバに接続する方法
- サイト間 VPN を使用して DRaaS インスタンスにアクセスする方法

惨事復旧システムでネットワーク設定を使用する方法

実行中の仮想マシンにアクセスして、スケジュールされた惨事復旧の一環として使用します。または、これらのマシンを本番ネットワークの一部として使用する場合、実行中の仮想マシンにアクセスします。

注: Cloud Hybrid に対してテスト ネットワーク設定オプションを使用するには、Arcserve サポートにお問い合わせください。

ポイント対 サイト VPN 設定を使用して、実行中の仮想マシンに接続します。

ポイント対サイト VPN 設定:

ポイント対サイト接続により、単一のクライアントマシンと Cloud Hybrid の仮想プライベートデータ センターの間で安全な VPN (virtual private network、仮想プライベートネットワーク)接続が有効になります。このような接続を使用すると、喫茶店にいるエンドユーザがクラウド内の復旧された環境に対して安全なプライベート接続を確立できます。注:エンドユーザがオンプレミス環境で利用可能なシステムに対するアクセスも必要としている場合、個別の接続が必要であることに注意することが重要です。オンプレミスシステムは、「ポイント対サイト」接続を使用してクラウド内の復旧されたシステムと通信することはできません。

以下の手順に従います。

- 1. リンクから OpenVPN クライアントをダウンロードしてインストールします。
- 2. オンボーディング プロセスの一環 として受信した電子 メールから、VPN 設定ファイルとパスワードを取得します。
- 3. 以下のパスに VPN 設定ファイルのコンテンツをコピーします。
 - <c:\program files\openvpn\config>
- 4. OpenVPN コンソールを開き、トレイ アイコンを右 クリックして **接続**]をクリックします。
- 5. ログイン パスワードを入力してください。

IP アドレスは、192.168.x.242 ~ 192.168.x.254 の範囲で自動的に割り当てられます。 サブネット マスクは 255.255.255.240 です。

注:上記のIP アドレス範囲のx は、クラウド インスタンスのパブリック IP アドレスの最終 オクテットです。パブリック IP アドレスを取得するには、クラウド インスタンスの FQDN (Fully Qualified Domain Name、完全修飾ドメイン名) にping を実行します。

惨事復旧システムの Hyper-V サーバに接続する方法

Arcserve UDP Cloud Hybrid では、Arcserve UDP サーバで利用可能な Hyper-V 役割が、レプリケートされたセッションの仮想スタンバイ、インスタント VM、およびアシュアード リカバリタスクを実行できます。ローカルシステムに Hyper-V マネージャをインストールし、ポイント対サイト VPN またはサイト対サイト VPN を使用して Cloud Hybrid で利用可能な Hyper-V サーバに接続し、復旧された仮想マシンを監視および管理できます。

注: Cloud Hybrid Hyper-V サーバには Windows 2016 OS が搭載されています。そのため、Windows 2016 または Windows 10 (Professional または Enterprise エディション) がインストールされているマシンを使用して、Cloud Hybrid Hyper-V サーバに接続します。

以下の手順に従います。

- 1. 管理者としてメモ帳を開きます。
- 2. C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts を開き、以下の行を追加します。
 <internal server ip> < ch*****.arcserve1.com >
- 3. クライアント マシンから、管理者として PowerShell を開きます。
- 4. インストールされているオペレーティング システムに基 づいて、以下 のコマンド を使 用して Hyper-V 機 能 を追 加します。

Windows 2016 の場合:

Add-WindowsFeature Hyper-V-Tools, Hyper-V-PowerShell

Windows 10 の場合:

Enable-WindowsOptionalFeature -Online -FeatureName "Microsoft-Hyper-V-Tools-All"

5. 以下のコマンドを使用して、Windows PowerShell のリモートを有効化します。

enable-psremoting

- 6. 以下のコマンドを使用して、クライアントまたはサーバマシンで CredSSP (Credential Security Support Provider) 認証を有効化します。
 - enable-wsmancredssp -role client -delegatecomputer "ch****.arcserve1.com
- 7. 以下のコマンドを使用して、Cloud Hybrid ユーザを追加します。
 - cmdkey /add:" < ch*****.arcserve1.com >" /user:clouduser /pass

- 8. プロンプトに従って、ウェルカム電子メールで受信した Cloud Hybrid ユーザのパスワードを入力します。
- 9. 以下のコマンドを使用して、Windows リモート管理を設定します。

winrm set winrm/config/client '@ {TrustedHosts="<hostname.arcserve1.com>"}'

10. 以下のコマンドを使用して、[ローカルグループ ポリシー エディター]タブを起動します。

Launch gpedit.msc

11. ロンピューターの構成]- 管理用テンプレート]- システム]- 資格情報の 委任]に移動し、 NTLM のみのサーバー認証で新しい資格情報の委任を 許可する]オプションをダブル クリックします。

NTLM のみのサーバー認証で新しい資格情報の委任を許可する]タブが表示されます。

- 12. 有効]オプションを選択します。
- 13. 「オプション」タブから 表示]をクリックします。表示するコンテンツ]タブが表示されます。
- 14. [値]タブに以下のコマンドを入力します。

wsman/< ch*****.arcserve1.com>

- 15. Hyper-V マネージャを開きます。
- 16. **別のユーザとして接続する**]チェック ボックスをオンにし、以下の認証情報を使用して、サーバ(ch*****.arcserve1.com)に接続します。

ユーザ名: < ch*****.arcserve1.com >\clouduser

パスワード: <クラウド ユーザ パスワード>

注: VM のデフォルトの LBS および VPN 設定は変更しないでください。

Cloud Hybrid で利用可能な VM が表示されます。

惨事復旧システムのHyper-Vサーバが正常に接続されました。

サイト間 VPN を使用して DRaaS インスタンスにアクセスする方法

DRaaS サブスクリプションをお持ちのお客様は、自社のネットワークチームの助けを借りて、このフォームに記入し、Arcserve サポートに問い合わせてサイト間 VPN プロセスの設定を開始してください。

この手順を完了するには、ネットワーク管理者の支援が必要になる場合があります。

第4章: 新しいまたは空の復旧ポイント サーバへのリバース レプリケーションの手動設定

重要: データを Cloud Hybrid からオンプレミス RPS サーバにレプリケートする場合、レプリケーション先 としてソース データ ストアを選択しないでください。データの破損を回避するため、新しいまたは空のデータストアを使用することをお勧めします。

以下の表は、Cloud Hybrid での手動リバースレプリケーション シナリオを説明しています。

シナリオ	説明	手順
シナリオ 1	Cloud Hybrid BaaS でオンプレミス サーバ、本番 サーバ、 および RPS (Recovery Point Server、復 旧 ポイント サー バ) 上 のデータが消 えた場 合。	<u>リンク</u>
シナリオ 2	Cloud Hybrid DRaaS でオンプレミス サーバ、本番 サーバ、 および RPS (Recovery Point Server、復 旧 ポイント サー バ) 上 のデータが消 えた場 合。	<u>リンク</u>
シナリオ3	オンプレミス Arcserve UDP コンソールまたは RPS データストアでエラーまたはデータの破損が発生した場合。ただし、オンプレミス本番サーバは適切に動作しています。	<u>リンク</u>
シナリオ 4	履歴データを取得するには、ローカルオンプレミス RPS に設定された保持期間が Cloud Hybrid RPS のものよりも短い場合。	<u>リンク</u>

第4章: 新しいまたは空の復旧ポイント サーバへのリバースレプリケーションの手動設定 81

シナリオ1およびシナリオ2を使用して手動で設定する方法

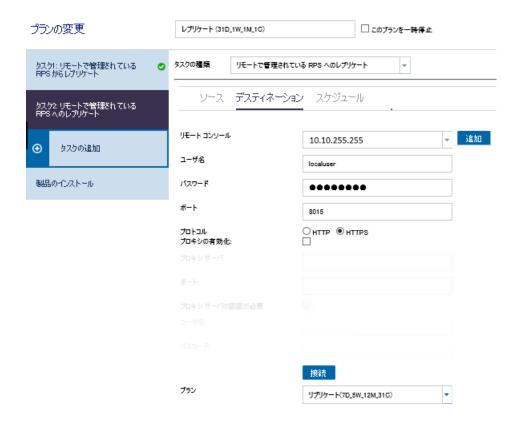
以下の手順に従います。

1. 新しいサーバを設定し、Arcserve UDP コンソールおよび RPS サーバをインストールします。

RPS サーバがパブリック ネット ワーク内 でアクセス可能 であること、または NAT が設定 されていることを確認します。

注:

- Cloud Hybrid および RPS への接続を確立するのに役立つ Arcserve UDP コンソールおよびエージェント ポートはオープンであり、インターネットからアクセス可能です。
- デフォルト ポート: 8014/8015
- セキュリティを改善するため、HTTPS プロトコルを使用してインストール することをお勧めします。
- 2. デデュプリケーション データ ストアを作 成し、パフォーマンスを改善 するために デデュプリケーション ブロック サイズを 64KB に設定します。
 - **注**: データ ストアには、同じレプリケーション ノードを含めないでください。新しいデータ ストアの作成 をお勧めします。
- 3. ローカルの管理者以外のユーザと共有レプリケーション プランを作成します。
 - 詳細については、リンクを参照してください。
- 4. Arcserve から受信した認証情報を使用して、Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインします。
- 5. リバース レプリケーションの実 行、対 応 するプランの変 更、 **リモート管理の** RPS へのレプリケート] タスクの追 加 が必 要 なノードを選 択します。
- 6. 「デスティネーション」タブで、新しく展開した Arcserve UDP コンソールのアクセス情報を指定します。
- 7. 保存]をクリックします。
 - プランが保存されます。



- 8. Cloud Hybrid で手動レプリケーション ジョブを実行します。 詳細については、リンクを参照してください。
- 9. Arcserve UDP コンソールで、必要に応じて BMR、VM 復 旧、IVM などのリストア ジョブを実 行します。

他のシナリオについては、このリンクをクリックしてください。

シナリオ 3 およびシナリオ 4 を使用して手動で設定する方法

以下の手順に従います。

1. Arcserve UDP コンソールおよび RPS サーバにログインします。

RPS サーバがパブリック ネット ワーク内 でアクセス可 能 であること、または NAT が設 定 されていることを確 認します。

注:

- Cloud Hybrid および RPS への接続を確立するのに役立つ Arcserve UDP コンソールおよびエージェント ポートはオープンであり、インターネットからアクセス可能です。
- デフォルト ポート: 8014/8015
- セキュリティを改善するため、HTTPS プロトコルを使用してインストール することをお勧めします。
- 2. デデュプリケーション データ ストアを作 成し、パフォーマンスを改善 するために デデュプリケーション ブロック サイズを 16KB に設定します。
 - **注**: データ ストアには、同じレプリケーション ノードを含 めないでください。新 しいデータ ストアの作 成をお勧めします。
- 3. ローカルの管理者以外のユーザと共有レプリケーション プランを作成します。

詳細については、リンクを参照してください。

- 4. Arcserve から受信した認証情報を使用して、Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインします。
- 5. リバース レプリケーションの実 行、対応 するプランの変 更、 **リモート 管理の** RPS へのレプリケート] タスクの追加が必要なノードを選択します。
- 6. 「デスティネーション] タブで、新しく展開した Arcserve UDP コンソールのアクセス情報を指定します。
- 7. 保存]をクリックします。

プランが保存されます。



- 8. Cloud Hybrid で手動レプリケーションジョブを実行します。 詳細については、<u>リンク</u>を参照してください。
- 9. Arcserve UDP コンソールで、必要に応じて BMR、VM 復 旧、IVM などのリストア ジョブを実 行します。

他のシナリオについては、このリンクをクリックしてください。